

JENESYS 2016 招へいプログラムの記録 (対象国：インド、テーマ：経済(第9陣)若手グローバルリーダー交流)

1. プログラム概要

インドよりグローバルに活躍する社会人及び研究者ら8名が、5月23日～5月30日の7泊8日の日程で来日し、外交、経済、社会、文化、歴史などの対日理解促進をテーマとしたプログラムに参加しました。一行は、都内でインドと繋がりのある有識者への表敬、企業や経済団体への訪問、若手リーダーとの交流を通じて、日印外交、経済政策、日本企業の海外への事業展開等について、講義を受けたり意見交換を行う機会を得ました。また、静岡県・愛知県での訪問では、インドの自動車業界で大きなシェアを占めている企業への訪問・工場見学を通して、インドでの事業拡大の歴史的背景や世界で通用する日本の技術について学ぶ機会を得ました。帰国前の最終報告会では、日本での気づきや学びに基づき、外交面や経済面での日印関係強化の重要性と今回の訪問で得た気づきや経験、日本との繋がり共有を通じたインドの若手リーダーのネットワークを強化について報告されました。

【参加国・人数】

インド 8名

【訪問地】

東京都、静岡県、愛知県

2. 日程

- 5月23日(火) 成田国際空港より入国
【来日オリエンテーション】
【交流】鴻池運輸主催 歓迎ディナー
- 5月24日(水) 【表敬／意見交換】日本商工会議所青年部
【表敬／意見交換】日印協会
【日本理解講義／意見交換】経済産業省
【表敬／意見交換】衆議院議員 尾身朝子氏
- 5月25日(木) 【企業訪問】双日株式会社
【表敬】駐日インド大使館
【表敬】外務省 小田原外務大臣政務官
【企業訪問】鴻池運輸株式会社
静岡県へ移動
- 5月26日(金) 【企業訪問】スズキ株式会社
愛知県へ移動
【企業訪問】トヨタ自動車株式会社 元町工場
【地域概要講義】愛知県(産業労働部)

- 5月27日(土) 【歴史的建造物視察】名古屋城
 【地域産業視察】神の井酒造株式会社
 東京都へ移動
 【交流】若手グローバルリーダー交流ディナー
- 5月28日(日) 【歴史的建造物視察】明治神宮
 【歴史文化】江戸東京博物館
 【歴史的建造物視察】浅草・浅草寺
- 5月29日(月) 【交流】ハーバード・ビジネス・スクール日本リサーチセンター朝食交流会
 【企業訪問】キヤノン株式会社
 【報告会／レセプション】
- 5月30日(火) 【表敬／意見交換】衆議院議員 和田義明氏
 成田国際空港より出国

3. プログラム記録写真 (都内)



5/23 【来日オリエンテーション】JICE



5/23 【交流】鴻池運輸(株)主催 歓迎ディナー



5/24 【表敬・意見交換】日本商工会議所青年部



5/24 【表敬・意見交換】日印協会



5/24 【表敬】尾身朝子 衆議院議員



5/25 【企業訪問】双日株式会社



5/25 【表敬】インド大使館



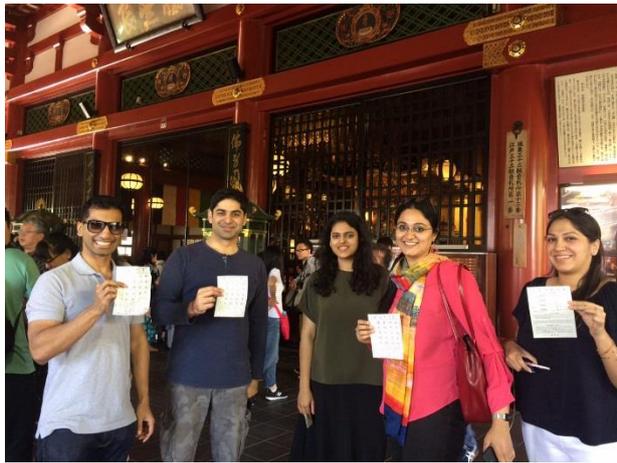
5/25 【表敬】小田原外務大臣政務官



5/23 【企業訪問】鴻池運輸株式会社



5/28 【歴史的建造物視察】明治神宮



5/28 【歴史的建造物視察】 浅草・浅草寺



5/29 【交流】 朝食交流会
ハーバード・ビジネス・スクール同窓生・HBS
S日本リサーチセンター



5/29 【企業訪問】 キヤノン株式会社



5/29 【報告会】



5/29 【報告会】



5/30 【表敬・意見交換】 和田義明 衆議院議員

プログラム記録写真（静岡県・愛知県）



5/26【企業訪問】スズキ株式会社



5/26【企業訪問】スズキ株式会社



5/26【企業訪問】トヨタ自動車株式会社



5/26【地域概要講義】愛知県



5/27【歴史的建造物視察】名古屋城



5/27【地域産業視察】神の井酒造株式会社

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ インド 社会人

プログラムは計画もよく実行も円滑でした。今回の訪問から、今日の日本の社会は高い文化価値と伝統に由来しているものだと強く感じました。それが社会全体に表れていると思います。他の人に対する謙遜や親切心はとても素晴らしいと思います。私が話しかけた人のほとんどが親切に助けに来て、日本語がわからなくても阻害されていると感じることはありませんでした。また、日本人はインドという国とインドの人々にも関心を持っていてと感じました。しかし一方で、日本人は、インドの文化や社会については、ほとんど知らないということも感じました。その点で、日本人はもっと国外に出たり、仕事をしたりすることが重要であると感じ、また同様に、インド人が日本に来てインドを発信することも重要であると感じました。お互いの国での仕事経験や訪問経験について、互いに議論したり共有したりできる活発なプラットフォームがあるべきだと良いと感じました。

◆ インド 社会人

ビジネス交流では、日本の素晴らしい勤労倫理に対する理解を得ることができました。日本がいかにか文化習慣をビジネス経営に取り入れているかという点にも感心しました。例えば「カイゼン」もしくは「継続的なカイゼン」の取り組みは特に素晴らしく、インドでのビジネスにおいても吸収すべき点であると思いました。衆議院議員の方々への表敬訪問では、日本の政策の優先事項や課題について知ることができました。インドと日本が戦略的、文化的にも自然なパートナー同士であるという事実を共有できたことも嬉しかったです。歴史的な場所への訪問は日本の歴史、社会、文化や生活についての理解を深めてくれました。目の届くすべてのものや細かいところにまで、配慮と素晴らしい仕組みが施されているところに気づきました。すべての工程が素晴らしかったです。インドの友人や同僚たちに日本を勧めたいと思います。

◆ インド 社会人

様々な産業やバックグラウンドの日本人と会い、交流できたことは良い機会でした。また、日本人がインドとの関係構築に非常に関心を高く持っていることが興味深かったです。効率性、礼儀正しさ、時間を守ること、また人間に対してだけでなく取り囲む自然対しても敬意を払うところは、素晴らしいと思いました。若手実業家との交流では、彼らの事業や経験がどのようなものかを知る良い機会となりました。文化面での視察も、日本の歴史を学ぶことが興味深かったです。衆議院議員の方々とお会いできたことは本当に素晴らしい機会でした。非常に暖かく、また興味深く話をして、歓待していただきました。製造の現場の視察もまた、そのアイデアやデザイン、正確さを知る貴重な機会となりました。

5. 受入れ側の感想

◆ 視察先関係者

非常に良い経験をさせて頂くことが出来ました。

文化外交の大切なプログラムの一つとして、今後の継続・発展を期待しております。

◆ 視察先関係者

貴重な意見交換の機会をいただき、誠にありがとうございました。

大変多くの気づきをいただき、日々の業務への学びとなりました。

◆ 視察先関係者

訪日団のお役にたてたことがわかり嬉しく思います。

こちらにもインド人の聡明さに触れ、人材豊富なインドの今後の発展を実感しました。

6. 参加者の対外発信

	
<p>ジョシ氏・クマール氏によって組織されたフューチャー・グローバル・リーダーズの代表団の一員として来日できたことを光栄に思う。特に日本政府とJICEのプログラム調整に感謝する。プログラムの目的は、日印間の経済、文化における相互理解や友好関係の構築。今年2017年は特に「日印友好交流年」としての記念の年。</p>	<p>今週初め、東京で、親しみのある皆さんの前で、インドの伝統的なダンスの一部を披露できたことは、喜ばしいことであった。ゲストには、日本の衆議院議員の方や駐日インド大使館関係者、JICEの関係者が含まれている。</p>

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

WHY JAPAN & INDIA

- Relationship between the two countries has existed from the early 19th Century
 - 1903 – Japan India Association Established
- BUDDHISM: The common spiritual bond
- SPECIAL GLOBAL & STRATEGIC PARTNERSHIP
 - Geopolitical Importance
 - Partner for Regional Cooperation & International Issues
 - Japan: Indo-Pacific Strategy
 - India: Act East Policy
 - DELHI MUMBAI DEDICATED FREIGHT CORRIDOR (DFC) PROJECT
 - DELHI MUMBAI INDUSTRIAL CORRIDOR
 - MUMBAI – AHMEDABAD SHINKANSEN (MAHR PROJECT)
 - More than 1300 Japanese Companies operating in India.

訪日経験を通して、改めてインドと日本の繋がりの深さを感じた。日本政府や多くの日本企業が、インドを日本の海外進出の重要なカギとなる国として捉えている一方で、日本にはインドに関する情報が不足している様子も見られたことが学びであった。

優秀な若手人材の流出が課題となっているインドにとっては、日本企業の進出が課題解決のカギとなりえることから、帰国後は、グローバルに活躍できるインドの優秀な若手人材のネットワークを強化し、今回日本で得た経験や気づき、ネットワークを共有していくことで、改めて、政治・経済・文化面での日本とインドの関係強化を図りたい。

以 上